

孤猿

血の海に透明な酒を流し
散る花の乱舞に手をさしのべて
春の香の^{うち}中に酔いしれる

降りしきる綿毛の彼方を望めば
広い^{うみ}湖と草千里と、そして青天が
白冠の^{やまなみ}山脈を上下から押しつぶす

私は叫ぶ、我敗れたり、と
歓喜に血を吐きながら叫ぶ
我、生に敗れたり、と

日よ沈め、私はここに残ろう
夜のしじまの中に永遠に
生命より逃れるために

(1985.3.18)